

ひょうごの遺跡

兵庫県埋蔵
文化財情報

47
号

平成15年3月31日発行

兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所

〒652-0032

神戸市兵庫区荒田町2-1-5

TEL 078 (531) 7011/FAX 078 (531) 7014

ホームページアドレス

<http://www.hyogo-c.ed.jp/~maibun-bo/>

巨大な柱を発見!

但馬最大級の建物跡か

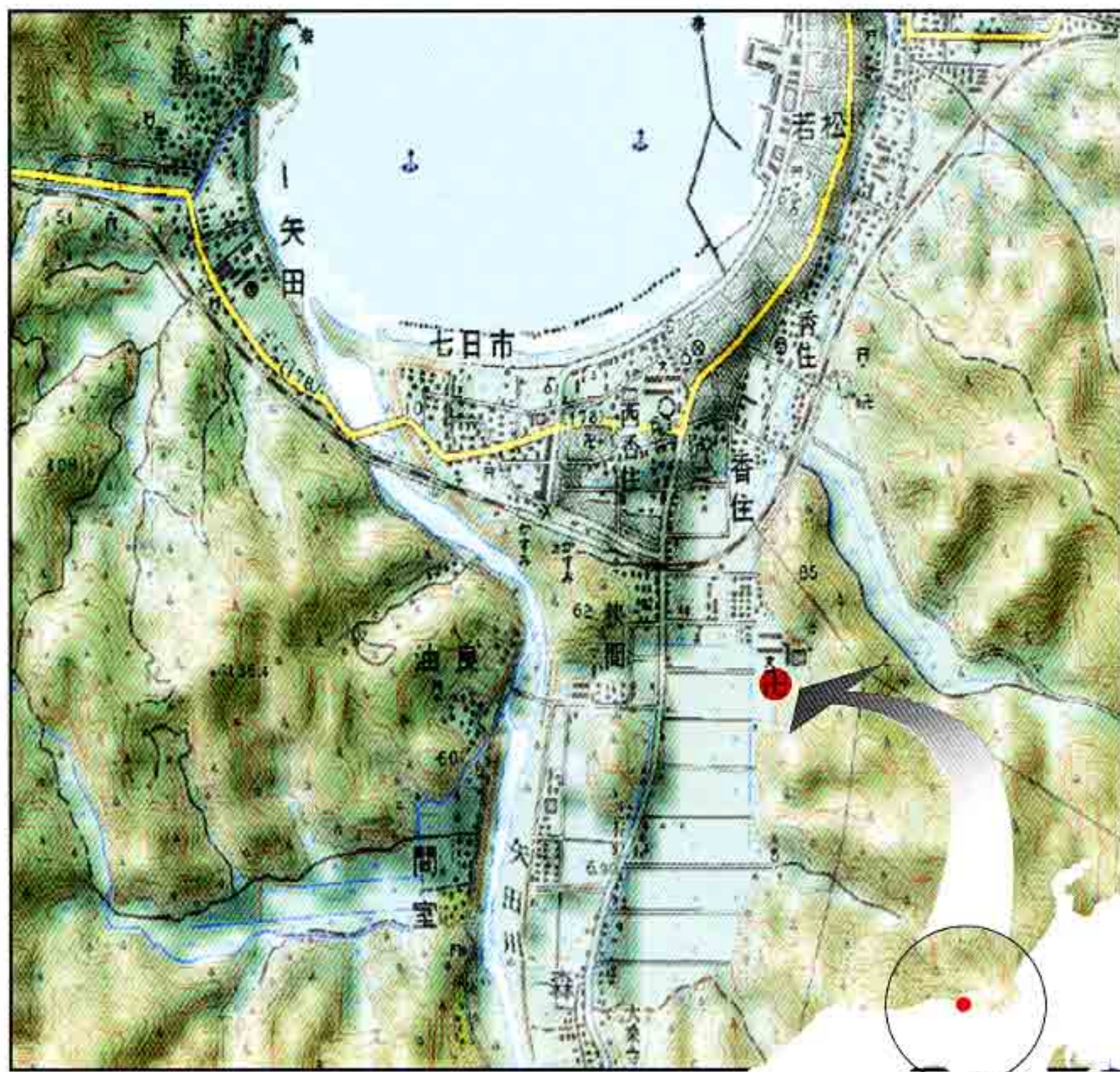
埋蔵文化財調査事務所では、城崎郡香住町香住字長見寺にある長見寺廃寺（ちょうけんじはいじ）の発掘調査を行ったところ、巨大な2本の柱を見つけました。

柱の大きさは、2本とも、直径約78cm、長さ約1.5mで、これまでに兵庫県内で出土した柱のなかでは、最大級の柱になります。



柱穴に埋まったままの柱根

巨大な柱を発見!



調査位置

調査を行ったきっかけは、香住町中心部を迂回するための香住バイパスの工事が計画されたことに始まります。この道路計画地内には、有馬皇子の子孫によって建てられた「長見寺」というお寺があったと言い伝えられていました。このようなことから、平成14年10月から12月にかけて、発掘調査を行いました。

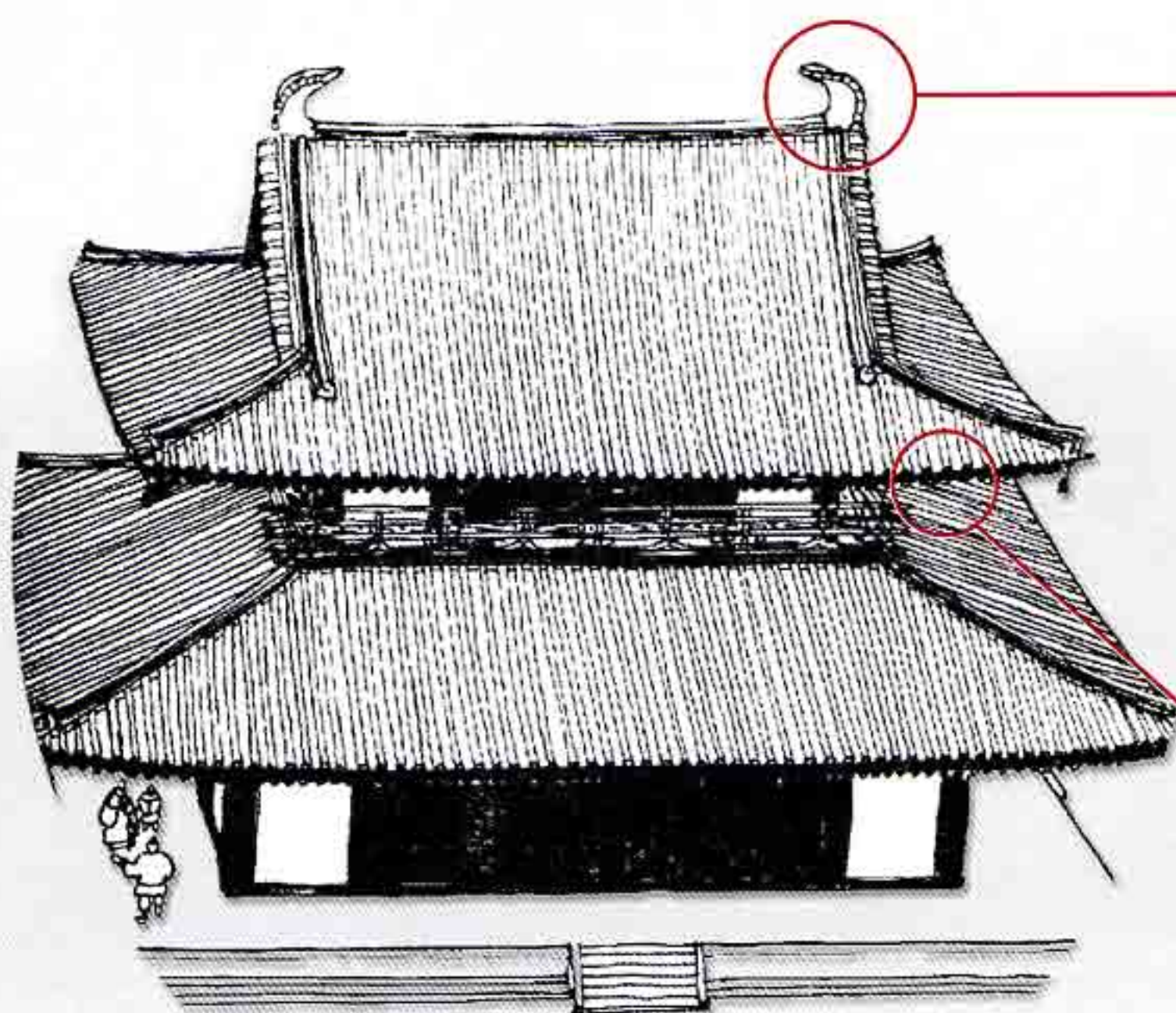
年代からみると、弥生時代（約1800年前）と古墳時代後半（約1400年前）及び飛鳥時代～奈良時代（約1350年前～1300年前）の3つの時代の土器や生活の跡（遺構）が発見できました。

最初に紹介した柱は、飛鳥時代～奈良時代のものと考えています。この時代の柱穴には、柱を立てるための穴の平面形が四角く、一辺の長さが1mを超えるものがあります。こうした柱穴のなかで、7つに当時の柱根そのものが腐らずに残っていました。このうちで最も大きな柱が、表紙の2本の柱です。

この他、直径約60cmの柱を2本みつけていますが、この柱も、他の遺跡でみつかった柱と比較しても、大きさにおいて見劣りするものではありません。



飛鳥～奈良時代の建物跡



堂宇の模式図

西岡常一・宮上茂隆著、穂積和夫 イラストレーション
『法隆寺 世界最古の木造建築』草思社より

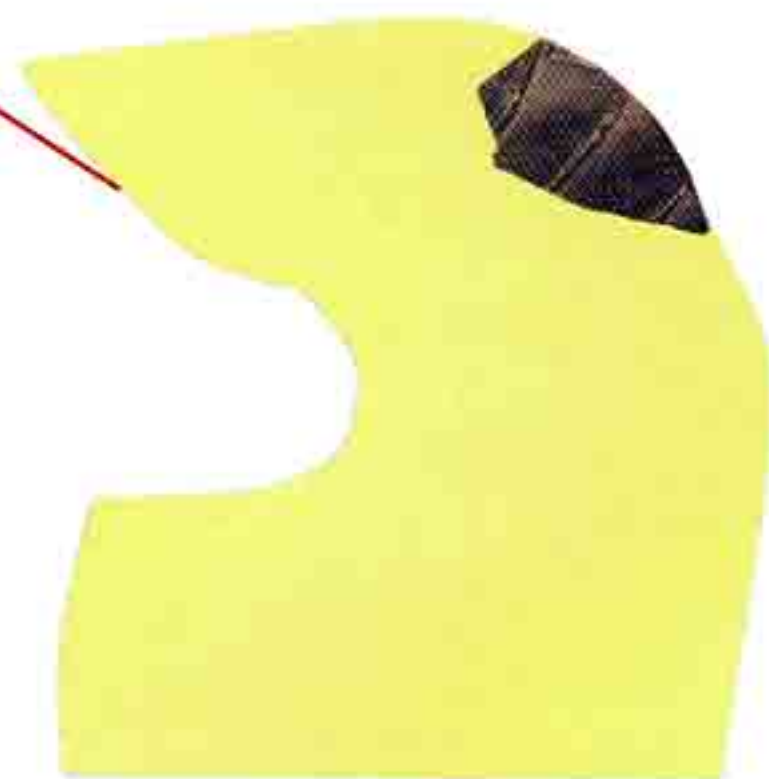
柱穴は、ほぼ等間隔で長方形に並び、一つの建物となります。今回の調査では、4棟の建物が明らかになりました。

これらの建物と同時期の遺物には、土器を始めとして、布目瓦や**鴟尾**（しび・屋根頂上部の両端を飾った瓦製の飾り）がみつかっています。特に、鴟尾はわずか3点の破片ですが、鱗（ひれ）部分を突帯で表現する特徴は、島根県・鳥取県の寺跡などでみつかっているものと同じです。このような特徴の鴟尾は、但馬地域はもとより、兵庫県内でもはじめての発見です。

また、瓦のなかには、屋根の軒先を飾った**軒丸瓦**（のきまるがわら）も数点みつかりました。軒丸瓦はその模様の特徴から、飛鳥時代までさかのぼることが明らかとなりました。但馬においては最も古い時期の瓦と考えられます。

さて、平面形が四角い柱穴・鴟尾・瓦といった遺構と出土品から連想される当時の建物としては、役所または寺院が考えられます。ここ香住の地に、役所があったという文献などの記録はありません。そして、全国各地で出土した鴟尾は、一般に寺跡もしくは鴟尾を焼いた窯跡でみつかるものなのです。

以上のことから、今回発見した建物跡は、寺院もしくはそれに関連する施設の一部ではないかと考えられます。その結果、当地に言い伝えられてきた長見寺伝承の真実性が、にわかに現実味を帯びることになってきたのです。



鴟尾の全体形



軒丸瓦



出土した鴟尾

考古楽者

新たな考古博物館と
新たなボランティアをめざして

とあゆむ

兵庫県教育委員会では、平成14年度より県立考古博物館（仮称）の整備を進めています。それに伴い、先行ソフト事業の一環として博物館支援ボランティア養成事業を始めました。これは、講座・実習・体験を通して考古学の基礎的な知識を楽しく身につけてゆき、将来の博物館の事業運営にボランティアとして参画する人材＝“考古楽者”を養成するセミナーです。年間25名程度を対象に実施し、5年間で約100名の人材育成を目標としています。

● 目的・内容



考古楽講座

このセミナーは、これまでの教養としての考古学講習会とは異なり、受講した考古楽者が身につけた知識を具体的に考古博物館において生かすことを目的としており、生涯学習としての考古学の新たな可能性を開くことができると考えています。

昨年4月の受講生の募集には、94名の方が応募されました。予想を超えた人気に驚きつつ、厳正に抽選を行って、25名の受講者を決定しました。



大中遺跡の発掘調査

内容は、考古楽講座・考古楽実習・考古楽体験の3本立てになっていて、考古博物館の建設予定地である播磨町を中心に実施しました。座学としての講座だけではなく、発掘調査から遺物整理までの実習を加えている点が特徴です。さらに博物館や遺跡を見学したり、勾玉や石器づくりを体験するなど、実に盛りだくさんのメニューとなっています。



1,800年前の家を掘る

● 講座・体験・実習

6月より開始した講座では、考古学の概論にあたる基礎的な遺跡・遺物の講義を皮切りに、考古学を通して歴史を考える視点を養いました。講座と並行して、7月からは再整備の目的で調査が始められた播磨町大中遺跡の発掘に参加しました。真夏の炎天下の作業にもかかわらず、毎日熱心に参加される方も多く、地中から歴史を掘り起こす発掘調査の醍醐味にすっかり魅了されたようです。10月までに弥生時代の竪穴住居跡を3軒調査しましたが、その頃には発掘の手つきもあざやかで、顔つきはすっかり考古楽者でした。土の中から土器を掘り出す喜びとともに、考古学にとってもっとも基本的な作業である「発掘調査」がいかに重要であるか、しっかりと体感できたのではないのでしょうか。

講座は大中遺跡にちなんで弥生時代の専門的な内容に入るとともに、勾玉や石器づくり体験を行い、古代の“モノ”づくりの技術やその“ココロ”に触れることができました。秋には、「県立人と自然の博物館」と「県立歴史博物館」を見学し、実際に活躍されているボランティアの方々と交流しました。また、加古川市石守廃寺や神戸市神出古窯址群の発掘現場も見学しました。大中遺跡での発掘を体験しているだけに、遺跡の年代や性格などについて多くの質問が交わされました。

この頃から、大中遺跡で出土した土器の洗浄、ネーミング、接合の実習作業に入っています。調査終了後も継続される地道な整理作業に驚くと同時に、こうした慎重な作業に裏打ちされた考古学の広い世界に認識を新たにされたようです。また、明石市魚住分館の収蔵庫で行われた展示会「考古楽祭」では、スタッフの一員として展示解説を行ったり、子



勾玉づくりに没頭!!



石器づくりの技に、驚愕!!

考古楽者 あゆむ

供たちに火起こしや勾玉づくりを教えたり、大活躍でした。自らの楽しみを、人に伝えるコンセプトを確立した“考古楽者”そのものに成長を遂げたようです。

引き続き、講座では東播磨の遺跡の概論や加古川の近世交通史を学び、対象とする地域と時代を広げ、12月の最終講座では、文化財の保護と活用について考えました。そして、自らの活動指針を求めながらワークショップを展開し、2月には修了式を迎えました。同時に、考古楽者による「考古楽倶楽部」が立ち上がり、自主的な活動が開始されることになりました。さらに、15年度の夏には、「考古楽企画展」が計画され、考古楽者による考古博の先行展示会とフォーラムが播磨町郷土資料館で開催されることも決定しています。

● 新年度に向けて

新年度からは、「みんなでつくる考古博物館」を合いことばに、考古楽者の主体性を重視して、行政との相互協力により種々の自主事業を展開していくことを目標とします。同時に、こうした活動をとおして仲間づくりを推進し、グループを組織化することも重要です。考古楽者の皆さんにとって、自己実現と社会参画の場を獲得できたと実感していただくことができたとき、このプロジェクトは成功したといえるでしょう。

なお、4月下旬から第2期考古楽者養成セミナーの受講生を募集します。調査事務所や播磨町郷土資料館などには要項を配置いたしますし、事務所のホームページでも確認してふるって応募してください。いっしょに、新しい考古博物館と新しいボランティアについて考えていきましょう。



神出石窯址群の見学

報告

ふるさと文化再発見
アクションプラン

考古楽祭

埋蔵文化財収蔵庫展

去る平成14年11月2日～8日に、明石市魚住町にある埋蔵文化財収蔵庫「魚住分館」において、収蔵庫展『考古楽祭』を開催しました。

収蔵庫内をご観覧いただいたのは、これまでで初めてのことです。おかげさまで、期間中、お子様から大人の方まで、合計573人という多数の方々に来館していただきました。

ここでは、そのときの様子をちょっとご紹介しましょう。



ひょうごの遺跡 47号

文字による説明ではなく、いつも作業をしている担当者からお一人づつに説明させていただき、会話をかわすことで、わかりやすくするようにつとめました。



収蔵庫内を10個のポイントに分け、スタンプラリーをしながら建物の中を見学していただきました。



火起こし



煙りが出てきた！もう少し！

古代の技術に挑戦！

普段は見学できない作業の様子や、収蔵品、さらには勾玉づくり、火起こし、拓本といった、体験コーナーも設けました。

勾玉づくり



おしゃれは今も昔も同じ

普段は「成果」しか目立ちませんが、その裏側にはこういった地味な作業があるのを心の片隅においていただければ幸いです。

2千年前の弥生人と対面



No.	遺跡名	所在地	事業名	遺跡の概要
1	沢野遺跡	氷上郡青垣町西芦田		古墳・奈良・平安時代の集落
2	伝平等寺跡	氷上郡青垣町遠阪	北近畿豊岡自動車道春日和田山道路I	平安時代の寺院
3	田ノ口遺跡	氷上郡青垣町遠阪		平安時代・中世の集落
4	茶すり山古墳	朝来郡和田山町筒江	北近畿豊岡自動車道春日和田山道路II	古墳時代の墳墓
5	柿坪遺跡	朝来郡山東町大月		古墳時代の集落
6	福中城跡	神戸市西区平野町福中	国道175号平野拡幅事業	中世の城館跡、弥生時代の集落
7	神出窯跡	神戸市西区神出町北	国道175号神出バイパス事業	平安時代の窯
8	富島遺跡	津名郡北淡町富島	富島震災復興土地区画整理事業	奈良～平安時代の製塩集落
9	大中遺跡	加古郡播磨町大中	史跡整備事業	弥生時代・中世の集落
10	有岡城・伊丹郷町遺跡	伊丹市伊丹4丁目	尼崎港川西線都市計画街路事業	江戸時代の寺院
11	石守廃寺遺跡	加古川市加古川町石守	平荘大久保線緊急道路整備事業	古墳時代の集落、奈良時代の寺院
12	大野遺跡	加古川市加古川町大野	別府川広域基幹河川改修事業	古墳～中世の集落
13	吉田1号墳	三木市志染町吉田	県道三木三田線総合整備促進事業	古墳時代の墳墓
14	今宿遺跡	姫路市西今宿	緊急街路整備事業山吹線	弥生時代・中世の集落
15	南畝町遺跡	姫路市高尾町	J R山陽本線等連続立体交差事業	弥生時代～古墳時代の集落
16	南通り遺跡	姫路市飾磨区中島	国道250号飾磨バイパス事業	奈良時代・中世の集落
17	鵜石田遺跡	揖保郡太子町鵜	県道太子御津線都市計画街路事業	弥生時代～古墳時代の集落
18	寺山古墳群	朝来郡山東町柊木	県道檜倉山東線道路改良工事	古墳時代の墳墓、戦国時代の城館
19	長見寺廃寺	城崎郡香住町長見寺	国道178号香住道路改築事業	白鳳～平安時代の寺院
20	宮ノ前向井遺跡	篠山市宮ノ前	国道372号日置バイパス事業	縄文時代の集落
21	大坪・大明神遺跡	津名郡五色町鮎原	都志川農業構造改善等関連河川事業	弥生時代・中世の集落
22	岩屋遺跡	伊丹市岩屋	大阪国際空港周辺伊丹緑地整備事業	弥生時代～中世の集落
23	天神前遺跡	加古川市神野町石守	県道平荘大久保線道路改良事業	奈良時代～中世の集落
24	北田遺跡	三原郡南淡町阿万	県道洲本南淡線道路改良事業	弥生時代の集落
25	十倉遺跡	三田市十倉	県道三田後川上線道路改良事業	弥生時代の集落
26	田中一の坪遺跡	三田市東本庄	県道福住三田線道路改良事業	弥生時代～古墳時代の集落
27	西後明窯跡	相生市若狭野町東後明	県道相生山崎線道路改良事業	平安時代後期の窯と工房
28	東中道ノ坪遺跡	篠山市東吹	県道西脇篠山線道路整備事業	古代末～中世の集落
29	八上上遺跡	篠山市八上上	国道372号交通事故防止対策事業	鎌倉時代の集落・室町時代の城館
30	境谷遺跡	姫路市太市	国道29号姫路西バイパス事業	奈良時代～平安時代の集落
31	播磨国分尼寺遺跡	姫路市御国野町	県道加古川姫路線道路改良事業	奈良時代の寺院
32	緑ヶ丘窯跡	相生市那波	県道竜泉那波線道路新設事業	平安時代の窯
33	明石城武家屋敷跡	明石市大明石町	神戸地方法務局明石支局新営事業	江戸時代の武家屋敷
34	北谷・中西台地遺跡	加古川市東神吉町	県道高砂北条線道路改良事業	奈良時代～鎌倉時代の集落
35	六条遺跡	芦屋市前田町・清水町	芦屋西部第一震災復興区画整理事業	弥生時代～近世の集落
36	梅田古墳群	朝来郡和田山町久留引	播但連絡道路事業	古墳時代の墳墓
37	太市中古墳群	姫路市太市	国道29号姫路西バイパス事業	古墳時代の墳墓
38	カヤガ谷古墳群	出石郡出石町	小野川放水路事業	古墳時代の墳墓
39	ニツ石戎ノ前遺跡	洲本市中川原町	県営ほ場整備事業	弥生時代の集落
40	中津原遺跡	洲本市下内膳	基盤整備促進事業	弥生時代・鎌倉時代の集落

編集後記

3月に入っても肌寒い日がつづいています。それでも、確かに新しい春は近づいているのです。

本号は、但馬香住町長見寺廃寺の巨大な建物跡と魚住分館収蔵庫展「考古楽祭」の概要報告、そして県立考古博物館（仮称）を支援するためのボランティア“考古楽者”養成事業を取り上げました。

4月には、第2期の新たな考古博物館とボランティアを目指す考古楽者養成セミナーが始まります。ひょうごの遺跡共々ご支援よろしくお願いいたします。(S.O)



文化財愛護シンボルマーク



“こころ豊かな兵庫”をめざして